

スポーツの力、横浜の未来

昨年は、世界三大スポーツイベントの一つと言われるラグビーワールドカップ2019™、そして今年には東京2020オリンピック・パラリンピックの野球・ソフトボール、サッカー競技が開催される横浜。活気あふれる横浜のスポーツについてお二人に聞きました。

スポーツの力

——三浦さん、2019年シーズンお疲れさまでした。2位となり本拠地でクライマックスシリーズを戦いました。昨季を振り返っていかがですか。

三浦…悔しいシーズンでした。優勝を掲げる中で2位。ジャイアンツに二時0.5ゲーム差まで迫ったところからガタガタッと引き離され、大勢のファンの期待に応えられませんでした。

山口…10連敗した時はどうなるかと心配しましたが、そこから盛り返しての2位。20年シーズンは、投手力の強化がポイントですね。

——ベ이스ターズの戦いも熱かったですね。19年はラグビーワールドカップ(W杯)もすごく盛り上がりました。

三浦…ウエールズ対南アフリカを見に行きまし

公益財団法人横浜市体育協会 会長

山口 宏

横浜DeNAベイスターズ ファーム監督

三浦 大輔



た。初めて生で見ましたが、すごい迫力で、スクラムやトライを巡る激しい攻防に熱くなりました。

山口…初戦の日本対ロシアを、みなとみらいのファンゾーンで見ましたが、ものすごい人でした。大勢の外国人が来場されて、試合前から盛り上がり、スポーツが持つ力を感じました。ベ이스ターズの、土日祝日に行われる横浜スタジアムのデーゲーム後は、関内の飲食店が満員です。活性化につながっていますね。

三浦…ありがたいことです。年々、野球を見るだけではなくボールパーク化してきています。野球ファン以外の人も横浜スタジアムに来てくださって、輪が広がっている感じがします。試合に勝った後、ベンチ前で整列して青く染まったスタンドを見上げた時のうれしさは格別です。優勝で応えないといけないと思っています。

山口…ボールパーク化という話が出ましたが、今横浜スタジアムを核とした「横浜スポーツタウン構想」というのがあります。横浜武道館(20年完成予定)やメインアリーナ(24年完成予定)が造られ、スポーツを通じてまちづくりを進め、地域の活性化や健康づくりをしていこうとする動きです。

スポーツとの関わり

——お二人に共通するのは野球です。三浦さんはプロで172勝を挙げ、数々の記録を打ち立ててきました。一番うれしかったことや記憶に残る試合は。

三浦…やはり1998年のリーグ優勝と日本一。あの喜びは一番大きく、2005年に個人タイトルを取った時よりもうれしかった。野球人

山口 宏

東海大相模高校時代は野球部主将、原辰徳巨人監督らとともに春夏合わせ計4回の甲子園大会出場。2010年横浜市体育協会第8代会長就任。横浜野球協会会長、横浜野球連盟会長。祖父は横浜スタジアム初代社長 山口久像氏



三浦 大輔

1991年横浜大洋ホエールズ(現横浜DeNAベイスターズ)入団、1998年自己最多12勝を挙げ、チームのリーグ優勝、日本一に貢献。2004年アテネオリンピック銅メダル。2014年から兼任コーチ、2016年現役引退。2017年スペシャルアドバイザー、2019年一軍投手コーチを経て、今季よりファーム監督



生で一番です。

—— お二人は野球を通じて、子どもたちを育てることに関わってきました。

山口：長年三浦さんにご協力いただいている三浦大輔杯横浜市学童軟式野球大会は10回を数えます。

三浦：大会を通じて、子どもたちに野球を楽しんでもらいたい、野球からいろんなことを学んでもらえたらいいな、という思いで関わっています。

—— 横浜野球協会や横浜野球連盟の会長でもある山口さんが特に力を入れているのは。

山口：子どもたちの野球離れが少子化以上のペースで進んでいるので、ティール大会などで普及をと思っています。勝利至上主義にならずに楽しく野球ができる環境づくりと、けがの予防を進めていきたいと思っています。

三浦：時代とともに指導法もどんどん変わっていかないといけないと思います。暴力や体罰は今の時代は絶対にダメなんです。昔はそれでも我慢していた時代もあったと思いますが、昭和、平成も終わって令和になりましたから、子どもたちのために変えていかないと。誰のためのスポーツか、誰のための野球なのかを考えて、指導者も変わらなければならない。

五輪イヤーと協会

—— 五輪イヤーを迎えました。

山口：ラグビーW杯では、地域の一体感などスポーツの持つ力を感じました。野球・ソフトボール、サッカーなど横浜で行われる五輪の競技に注目も集まるでしょうし、それを見た子どもたちがスポーツにどう関わってくれるかな、と期待しています。横浜スタジアムが世界のレガシー(遺産)になるという大変光栄な機会でもあります。

三浦：横浜でオリンピックが行われるというだけで今からワクワクしています。横浜スタジア

ムでオリンピックの試合を見て「自分も野球をやるう」という子どもが一人でも多く増えてくれることを願っていますね。

—— 横浜市体育協会はスポーツ全般に関わっています。昨年90周年を迎え、五輪イヤーには「スポーツ協会」に名称が変わります。

山口：いま74の加盟団体とともに、競技スポーツ、生涯スポーツ、地域スポーツ、レクリエーション、インクルーシブスポーツ、健康体力づくりなど幅広い分野でスポーツを推進しています。昨今、社会が大きく変化し市民ニーズが多様化してきており、これからのスポーツ関係団体には、さらにいろいろな役割を担うことが求められてきていると感じます。

そこで、100周年に向かうこの機に「体育」の概念を含む幅広い分野を表現した「スポーツ」を当協会の名称に用いました。

未来に向け、「スポーツタウン横浜」を舞台に「いつまでもスポーツが楽しめる明るく豊かな社会の実現」を目指し、スポーツの層の発展に取り組み、スポーツという素晴らしい文化を後世に継承していきたいと考えています。

—— 最後に抱負をお願いします。

三浦：19年は2位という悔しいシーズンでしたが、やはり優勝、そこしかない。五輪イヤーに横浜スタジアムでオリンピックがあつて、終わった後にベイスターズがそこで優勝する。そのためにも、ファーム監督として、二軍に一人でも多くの選手を送り出せるように頑張ります。

山口：大いに期待しています。地元のスポーツ団体、そして横浜市民とともに全力で応援します。オリンピック開催、ベイスターズの優勝と一緒に横浜を盛り上げていきましょう。

取材：文：神奈川新聞社統合編集局運動部長

佐藤 英仁

横浜市体育協会は 創立90周年を迎えました

令和元年を迎え、公益財団法人横浜市体育協会は創立90周年を迎えました。

長きに渡り私たちが横浜市のスポーツ振興に寄与できたのは、ひとえに横浜市民の皆さまのお力添えによるものであります。ここに厚くお礼申し上げます。

令和元年11月22日には、ロイヤルホールヨコハマにて、創立90周年記念式典を開催いたしました。当日は、総勢400名以上のご参加をいただき、盛大な式典となりました。

式典は、藤木幸夫名誉会長による挨拶で幕を開け、続いて山口宏会長からの挨拶の後、鴻義久神奈川県体育協会会長ら、多くの来賓から祝辞を頂戴しました。また、当協会の活動に長年に渡り、尽力いただいた賛助会員の皆さまへの感謝状贈呈も行いました。

山口宏会長の挨拶では、令和2年4月1日より当協会の名称を「公益財団法人横浜市スポーツ協会」に変更することを発表いたしました。

私たち横浜市体育協会は、スポーツという文化を後世に継承していくため、これからは「体育」を包括した広義の「スポーツ」という言葉を用い、これからも横浜市や加盟団体をはじめとする関係団体の皆さまとともに、スポーツのさらなる発展に取り組んでまいります。

